

FIDATA HFAS1-S10 の活用(28)

—Spotify Connect—

1. はじめに

fidata のファームウェアのアップデートにより Spotify Connect に対応できるとの情報に接し、早速試聴してみました。

2. ファームウェアと fidata Music アプリのバージョンアップの確認方法

現在、Spotify のストリーミング再生は、下記の方法によっています。

PC→Sonica DAC による再生

Sonica DAC による Spotify Connect による再生

タブレットによる WiFi からの再生

今回、下記により Spotify Connect 対応の情報が得られました。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202112/08/22974.html>

[https://www.iodata.jp/news/2021/information/spotify-](https://www.iodata.jp/news/2021/information/spotify-connect.htm?utm_source=iomail211208)

[connect.htm?utm_source=iomail211208](https://www.iodata.jp/news/2021/information/spotify-connect.htm?utm_source=iomail211208)



これらの情報を基に HFAS1-S10 のファームウェアと fidata Music アプリのバージョンアップを検討します。

FIDATA HFAS1-S10 を立ち上げますと、ランプが点滅の後、赤色に点灯し、長時間継続します。ランプの赤色が薄いオレンジ色になると電源を切ります。再度立ち上げますと、通常の白色に変わります。

そこで、iPad の Spotify を立ち上げ、デバイスメニューを見ても、それらしいデバイスは出てきません。Sonica DAC は、通常通りデバイスに指定できます。

あれこれ手間取りましたが、USB 接続している Brooklyn DAC+の電源を入れていないことに気が付き、Brooklyn DAC+の電源を入れますと、写真のようなデバイス

の表示ができました。つまり、fidata がネットワークに接続していることと DAC と USB 接続がされており、DAC の電源が入っていることが必要です。



Sonica DAC で再生

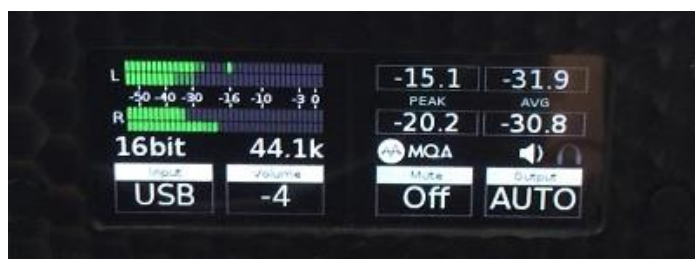
fidata と Brooklyn DAC+で再生

このあたりの説明が、ファームウェア更新に時間がかかることなどとともに、ニュースリリースの情報提供内容に不親切なところがあります。なお、fidata Music アプリのバージョンアップは必要なさそうです。

3. ファームウェアと fidata Music アプリのバージョンアップの確認結果 試聴は下記のルートで行います。

FIDATA HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase

上記の Spotify の手順でデバイスの指定を行い、通常通り Spotify の音源を指定すると再生が始まり、Brooklyn DAC+の画面は 44.1KHz の表示がでます。



いくつかの音源について下記の経路との音質の比較を行いました。

Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+→TruPhase

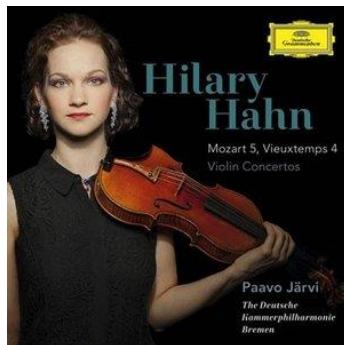
バッハ 無伴奏ソナタ・パルティータ
堀米ゆず子



バッハ Goldberg 変奏曲
家喜美子



モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 5 番
ヒラリー・ハーン
パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ室内フィルハーモニーBremen



fiidata と Brooklyn DAC+経由と Sonica DAC 経由を比較しますと、両者とも近似していますが、敢えて違いを述べると、前者には静寂感があり、透明度の高い音がするのに対し、後者はウオームでダイナミックな音がします。

これまでの PC 経由と Sonica DAC 経由に加えて fiidata と Brooklyn DAC+経由の再生が可能になり、選択肢が増えました。

4. まとめ

ファームウェアのバージョンアップにより **Spotify Connect** の再生が可能となり、音質の確認が取れました。

以上